

## 2025 年度朝鮮族研究学会全国大会

日時：2025 年 11 月 29 日（土）

場所：帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア 5 階 521 室  
対面とオンラインのハイブリット方式による開催

09:30-10:00 午前部の部 受付

10:00-10:05 開会あいさつ 鄭雅英（立命館大学）

午前部の部 会員報告

司会：金太宇（桃山学院大学）

### 第 1 報告

10:05-10:30 権力（一橋大学大学院）

「満洲国期朝鮮人移民の医療・衛生と民族間格差  
——宣伝表象と生活実態の乖離」

10:30-10:35 討論 宮川英一（日本経済評論社）

10:35-10:40 応答

### 第 2 報告

10:40-11:05 許秦（東京大学）

「ソウル方言の単母音に対する中国延辺朝鮮語話者の知覚様相  
——古い世代の話者を中心に」

11:05-11:10 討論 朴景淑（花園大学）

11:10-11:15 応答

### 第 3 報告

11:15-11:40 孫ミギョン（岐阜市立女子短期大学）

「非集住地域における在日コリアン・コミュニティの形成と変容  
——岐阜県の事例を中心に」

11:40-11:45 討論 外村大（東京大学）

11:45-11:50 応答

11:50-13:00 昼食

13:00-13:30 会員総会

14:00-17:30 午後のシンポジウム

「近代日本の植民地統治における国籍と戸籍

——満洲・朝鮮・台湾」

共催：朝鮮族研究学会、

JSPS 科研費・課題番号：C24K15495、JSPS 科研費・課題番号：C25K15615

場所：帝京大学 八王子キャンパス ソラティオスクエア 5階 521室

対面とオンラインのハイブリッド方式による開催

趣旨：

本年、第二次世界大戦の終結から80周年を迎えるにあたり、戦後直後の東アジアにおける旧植民地出身者の位置付けと再編を主題とするシンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムでは、戦前日本の国籍法および戸籍法の制度的枠組みを踏まえつつ、旧植民地出身者が戦後東アジア諸国においていかに法的に位置付けられ、その社会のなかでいかに再編されていったのかについて議論します。とりわけ、中国東北地区（旧満洲）居住朝鮮人、韓国に残留した日本人、そして在日台湾人などについて、複層的な視点から議論を行います。こうした検討を通じて、戦後東アジアにおける旧植民地出身者の位置付けを、帝国の解体の問題にとどまらず、冷戦構造の形成と交錯しながら展開された東アジアの戦後史のなかに接続することを試みます。

13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会の辞・趣旨説明・司会：鄭雅英（立命館大学）

14:10～15:10 基調講演：遠藤正敬（戸籍・国籍研究者、サントリー学芸賞受賞）

「近代日本の植民地統治における国籍と戸籍

——満洲・朝鮮・台湾」

15:10～15:25 休憩

15:25～16:40 討論：

李海燕（東京理科大学）

玄武岩（北海道大学）

鶴園裕基（香川大学）

16:40～17:20 質疑応答・全体討論

17:20～17:30 閉会の辞・事務連絡

お問い合わせ：[chaoxianzu@hotmail.com](mailto:chaoxianzu@hotmail.com)